

中世前半期(12~14世紀)の船橋の遺跡

峰台遺跡ほか 船橋市内の中世前半の遺跡について (「中世の船橋」2002年船橋市郷土資料館より)

中世前半期の船橋市内のおもな遺跡は、前頁で紹介した西船・印内台遺跡、東中山・本郷台遺跡(東中山台遺跡群内)のほか宮本・峰台遺跡、夏見・夏見大塚遺跡、飯山満・ユルギ松遺跡などがあります。発掘調査は開発行為が多く行なわれている市域西部・南部に集中しています。市内の北部や東部にも中世の遺跡は存在しますが、今のところ内容が明らかになっているものは少ないです。

最近の調査で注目される遺跡は、峰台遺跡、本郷台遺跡7次調査、夏見大塚遺跡10次調査などです。峰台遺跡や本郷台遺跡7次では、市内では数少ない12・13世紀の資料がまとめて出土しています。峰台遺跡は、標高4~6mの低地を調査した結果、井戸跡、貝殻で舗装された道路跡、盛土遺構等が見つかり、静岡県湖西産の山茶碗、愛知県渥美産こね鉢(播鉢)や壺、愛知県常滑産の高台付片口鉢(播鉢)や甕の破片が多く出土し、ほかに市内では稀な中国産の白磁碗・白磁口禿皿の破片が出土、また中国産青磁碗の破片や国産陶器である古瀬戸製品(前・中期)も見つかっています。峰台遺跡から北西方向にあたる夏見大塚遺跡10次では、県内でも数例しか出土していない長崎県西彼杵半島産と推測される滑石製石鍋破片が出土しました。峰台、夏見大塚遺跡ともに夏見御厨の範囲内に含まれる遺跡で、夏見台地前面の低地に存在したと考えられる夏見瀉(推定・船橋湊)を囲むように存在する遺跡です。



43. 中国から輸入された高級陶磁器

上段左から船橋市峰台遺跡：白磁碗底部片(12世紀)、白磁口禿皿片(14世紀)、青磁碗底部片(13世紀)、下段左から船橋市本郷台遺跡7次：青磁劃花文碗2点(12世紀後半)・青磁蓮弁文碗(13世紀)(竜泉窯産)、青白磁梅瓶片(13世紀)(景德鎮窯産)

青白磁梅瓶は酒などをいれたとっくり形の壺。鎌倉以外では少量しか出土しない高級陶磁器。鎌倉武士が好み、座敷飾りなどに使ったブランド品。持ち主は船橋の在地領主層など身分の高い人の可能性があります。



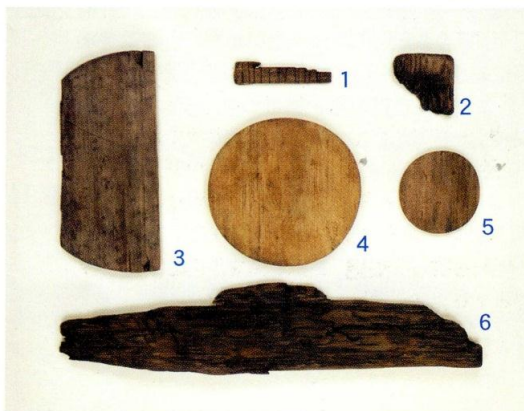
44. 東海産の陶器 船橋市峰台遺跡出土

1・2・7・8・10常滑産高台付片口鉢片(播鉢)(13世紀)、3山茶碗底部片(湖西産)(13世紀)、4~6渥美産壺・片口鉢片(12世紀)、9常滑産甕底部片(井戸から出土)割れた甕の底をこね鉢としてリサイクルしている(13世紀)、11~15常滑産甕片(13世紀~)水がめや貯蔵用に使われ、多くの破片が出土。

45. 井戸から出土した木製品

船橋市峰台遺跡出土(13~15世紀)

1曲物の側板、2結桶の側板、3~5曲物の底板、6板状の部材



船橋市本郷台遺跡7次では道路跡などから南伊勢系土鍋破片、中世前半期の高級輸入陶磁器である青白磁梅瓶破片、青磁劃花文碗・蓮弁文碗の破片が出土。ほかに12・13世紀代の渥美産甕・常滑産甕の破片が多数あります。本郷台遺跡は古代においては官衙(役所)の様相を示す大集落で、古代から中世前半にかけて継続した繁栄が認められ、在地領主クラスが存在が予想される遺跡で注目されます。またその東隣りにある印内台遺跡でも、前掲のとおり身分の高い人々の墓と考えられる土坑墓が多数見つかると、本郷台遺跡と同様に在地領主級の人々が存在した可能性のある遺跡です。



46. 瀬戸・美濃産の焼物

船橋市峰台遺跡出土(13~16世紀)

左端4点は古瀬戸瓶子で、酒などを入れたとっくり(13世紀・古瀬戸前期)。



48. 滑石製石鍋破片

船橋市夏見大塚遺跡10次出土(13世紀)



49. 滑石製石鍋

鎌倉市東勝寺跡遺跡出土(13世紀)

鎌倉市教育委員会所蔵



47. 常滑・渥美産甕

船橋市本郷台遺跡7次道路跡出土(12~15世紀)

上段3点は渥美産甕(押印文付き)(12世紀)、他は常滑産甕(中段は押印文付き・13世紀)

滑石製石鍋のもつ意味

滑石製石鍋は、長崎県の西彼杵半島で作られ、博多津から出荷されて海上輸送で鎌倉へ運ばれ、その後、鎌倉から船橋へもたらされたと推測されます。石鍋は、見た目は現在の石焼ビビンバの鍋と似ていますが、中世の頃は高価なもので牛1頭につき鍋4個の値であったといわれます。京都や鎌倉などの都市では比較的多く出土しますが、他の地域

では少ししか出土しません。都市のほかには街道筋の遺跡で出土する例が多く、交易や交通の要衝で見つかる資料とも考えられます。船橋では夏見御厨内にある夏見大塚遺跡で出土しています。1点といえども御厨、交易、交通、鍋を所有した階層などを考える上で重要な資料です。